

## 名古屋市におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) の初記録

野呂 達哉

なごや生物多様性センター

### First record of Asian Parti-colored Bat, *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) in Nagoya City, Aichi, Japan

Tatsuya NORO

Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

Correspondence:

Tatsuya NORO E-mail: shrew-mole@ace.ocn.ne.jp

#### はじめに

名古屋市内ではこれまでに、アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*, キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*, オヒキコウモリ *Tadarida insignis* の3種類のコウモリ類が確認されている(名古屋市, 2015).

今回新たに、市内では未確認であったヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* が、都市域である中区栄三丁目の専門学校8階で確認されたので報告する。これは名古屋市内におけるヒナコウモリの初確認記録である。

#### ヒナコウモリ確認の経緯

2016年1月14日13時10分頃、名古屋市中区栄三丁目にある名古屋コミュニケーションアート専門学校エコ・コミュニケーション科(図1: N 35° 09' 53.7", E 136° 54' 11.3")の8階で、階段北側に貼られたパンチングメタル製金網の壁面内側に一頭のコウモリがつかまっているのを学生が発見した(図2)。コウモリがつかまっていた場所は人の腰の高さほどであり、また、学生が頻繁に通行する場所でもあったため、このコウモリを一時保護することとした。この個体を観察したところ、背面の毛が霜降り状を呈していたことなどから、ヒナコウモリ



図1. ヒナコウモリの確認地点(中区栄三丁目).



図2. 階段のパンチングメタル製壁面につかまるヒナコウモリ.

と推測された。なお、この個体の一時保護については、愛知県環境部自然環境課に第一報を入れた。

一時保護した個体はほとんど動かなかったため、「なごや生物多様性センター」へ運び入れた。パネルヒーターで保温し、スポイトで給水、餌としてミールワームを与えたがまったく食べなかった。1月18日に死亡したため、外部形態を計測した。その後、仮剥製と頭骨標本、性別が雄であったため陰茎骨の標本を作製した。また、毛皮と表皮、頭骨、陰茎骨を除いた身体については、無水エタノールで液浸保存した。これらの標本は、名古屋市環境局「なごや生物多様性センター」の標本庫に収蔵した（登録番号：MA00138）。

計測値は、体重が13.1 g、前腕長が46.4 mmとヒナコウモリとしては若干小型のように思われた。類似した小型種であるヒメヒナコウモリ *Vespertilio murinus* は、頭骨最大長が16 mm以下で、ヒナコウモリは16 mm以上とされる（阿部，2007）。今回拾得された個体の頭骨標本を計測したところ、頭骨最大長が16.6 mmであったため、ヒナコウモリと同定した（図3）。これは名古屋市におけるヒナコウモリの初確認記録である。

今回、ヒナコウモリが確認された場所は、名古屋市有数の繁華街、栄（図4）にある専門学校内の階段であった。確認場所の階段は校舎の外側に面しており（図5）、壁面がパンチングメタル製金網であったためヒナコウモリはつかまることができた。この専門学校の屋上は緑化されており、ヒナコウモリが確認された階段通路は、屋

上から直接侵入可能であった（図6）。今回の結果のみではヒナコウモリが市内の都市域に偶然迷い込んできた可能性も否定できないが、確認が冬期の1月であることから、市内で越冬していた可能性も示唆される。

今回の事例では、ヒナコウモリがこの時期に別の場所から飛来し、階段内に侵入したのか、それとも、すでにこの場所で越冬していたのか判断することはできなかった。ただし、階段天井と校舎の間には数cmの隙間があり、そのような場所でヒナコウモリが越冬することは可能であったのかもしれない。見つかったヒナコウモリは、左前肢第1指の先端が欠損していたことから、体をうまく保持できず、越冬場所から落ちてしまった可能性も考えられる。今後、階段天井と校舎の間にある隙間にコウモリ類が越冬していないか調査する予定である。

#### 名古屋市内でヒナコウモリが活動している可能性

これまで、ヒナコウモリが名古屋市内で活動している可能性は音声調査によって示唆されていた。ヒナコウモリは都市域で活動することが多いアブラコウモリに比較すると、20 kHz台の比較的低い周波数の音声を発するコウモリとして知られる（Fukui, 2004；船越，2010）。2012年から2016年までに市内各地で実施してきたコウモリ類の飛翔時における探索音（search phase call）の音声調査では、ピーク周波数が20 kHz前後の周波数の音声を発するコウモリ類が、市内の大村池（守山区）、小幡緑地（守山区）、緑ヶ池（守山区）牧野ヶ池（名東



図3. 一時保護したヒナコウモリ。



図4. 中区栄3丁目の街並み。



図5. 確認場所の階段. ヒナコウモリは矢印の位置の内側で確認された.



図6. 侵入経路と考えられる屋上階段の通行口.

区) 名古屋城 (中区), 名城公園 (中区) といった広範囲で確認されている (野呂未発表). 現在, 20 kHz 台の音声を発する種で, 愛知県内で確認されている種は, ヤマコウモリとヒナコウモリの2種類である. 今のところ, ヤマコウモリとヒナコウモリの音声のみによる判別は困難であるため, 音声調査のみでヒナコウモリと同定することはできない. しかし, 上記した市内の地域の内, いくつかの地域ではヒナコウモリが活動している可能性も十分に考えられる. 特に今回のヒナコウモリの拾得場所である中区栄から2 km ほどしか離れていない名古屋城や名城公園でも, 20 kHz 台の音声を発するコウモリ類が複数回確認されていることから, 今後, この地域でヒナコウモリが確認される可能性は非常に高いと考えられる. また, 全国的に見ても市街地でのヒナコウモリの確認事例が増えていることから (青木ほか, 2006; 板橋ほか, 2007; 広瀬ほか, 2008; 浦野ほか, 2008; 重昆ほか, 2013; 大沢ほか, 2014), 今後, 名古屋市内でもねぐらや越冬場所, 活動場所が見つかる可能性も十分に考えられよう.

ヒナコウモリは愛知県レッドリストでは「絶滅危惧 I B 類 (EN)」として記載されている (愛知県, 2009). 名古屋市レッドリスト (名古屋市, 2015) では未記載種である. そのため, 次回の名古屋市レッドリスト改訂時には新たにヒナコウモリをリストに加える必要がある. 現時点では, ヒナコウモリが市内を越冬場所やねぐら, 活動場所としているのかが確認できていないため, 「情

報不足 (DD)」が妥当である. しかし, 今後の調査によっては, 名古屋市内におけるヒナコウモリの定着を確認することができるかもしれない. 今後, ねぐらや越冬場所の調査に加えて, 音声による調査方法を確立し, より積極的な生息分布調査を進めていくことが望まれる.

#### 謝辞

ヒナコウモリの発見をいち早く知らせてくれた当時名古屋コミュニケーションアート専門学校エコ・コミュニケーション科在学学生であった服部有里さんと根川光さんには, この場を借りて深く感謝いたします.

#### 引用文献

- 阿部 永. 2007. コウモリ目コウモリ亜目ヒナコウモリ科ヒナコウモリ属. 増補版日本産哺乳類頭骨図説, pp.199. 北海道大学出版会, 札幌.
- 愛知県. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009動物編. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. 651pp.
- 青木雄司・秋山幸也. 2006. 相模原市の住宅地におけるヒナコウモリの保護記録. 神奈川自然誌資料, 27: 41-43.
- Fukui, D., N. Agetsuma, and D. A. Hill. 2004. Acoustic Identification of Eight Species of Bat (Mammalia: Chiroptera) Inhabiting Forests of Southern Hokkaido, Japan: Potential for Conservation Monitoring,

- Zoological Science, 21 (9): 947-955.
- 船越公威. 2010. 九州産食虫性コウモリ類の超音波音声による種判別の試み. 哺乳類科学, 50: 165-175.
- 広瀬憲也・大橋直哉. 2008. 東京都墨田区のマンションでヒナコウモリを保護. コウモリ通信, 16(1): 13-15.
- 板橋正憲・須永絵美・東野晃典・小林順子・田坂樹里. 2007. 座間市で保護されたヒナコウモリの越冬飼育と出産の記録. 神奈川自然誌資料, 28: 51-53.
- 重昆達也・大沢夕志・大沢啓子・峰下 耕・清水孝頼・向山 満. 2013. 群馬県の新幹線高架橋で見つかったヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の出産哺育コロニーおよび冬季集団. 群馬県立自然史博物館研究報告, 17: 131-146.
- 前田喜四雄. 2008. 翼手目ヒナコウモリ科ヒナコウモリ. 日本の哺乳類 改訂2版, pp.52. 東海大学出版会, 秦野. 名古屋市. 2015. レッドデータブック名古屋2015動物編. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. 504pp.
- 大沢啓子・佐藤顕義・勝田節子・大沢夕志. 2014. 埼玉県の新幹線高架におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の越冬期と出産哺育期の分布. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 8: 49-52.
- 浦野信孝・米道綱夫・山本浩平. 2008. 新たに発見されたヒナコウモリのコロニー. コウモリ通信, 16(1): 19-20.